



マンダウエ市地区での会議集合写真 ( フィリピン )

Group Photo during the Meeting in Mandaue City Division (Philippines)

## Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付が頂けます。】

### Table of Contents Vol.61 (Nov., Dec. 2017)

- バングラデシュ：都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- インド：参加型コミュニティ防災推進事業
- フィリピン：セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- ネパール：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト
- 日本：(1) 丹波市復興まちづくり協働事業  
(2) 丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業  
(3) JICA 課題別研修 (防災主流化の促進)  
(4) 講師派遣
  
- Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas
- India: Project on Participatory Community-Based DRM
- Philippines: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- Nepal: Project on Capacity Building of DRM for Village Development Committees
- Japan: (1) Joint Project with Tamba City for Community Development  
(2) Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project  
(3) JICA Training (Promotion of Mainstreaming DRR)  
(4) Dispatch of Lecturers



特定非営利活動法人 SEEDS Asia

〒658-0072

3-11-30-302 Okamoto,

Higashi Nada ku, Kobe, Japan

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>



バングラデシュ

【JICA 草の根技術協力事業：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

防災写真コンテスト開始

バングラデシュ事業では、コミュニティでの活動に加え、現地メディアを巻き込んだ一般市民向けの防災啓発にも取り組んでいます。その一環として、11月に防災写真コンテストの募集を開始しました。参加者は、防災と女性/学校/家庭/環境/テクノロジー等の視点から、写真とそこにあるストーリーを提出します。写真コンテストや写真展はバングラデシュでも頻繁に行われていますが、防災をテーマにしたコンテストは今回が初めての取り組みとなります。現在、ダッカ市内の大学の関連学部や写真部、コミュニティを訪問し、コンテストの趣旨を説明するとともに広く参加を呼び掛けています。優秀作品は2018年2月に開催予定の写真展にて展示されます。



防災写真コンテスト募集開始！

タウンウォッチングマニュアル完成記念イベント

12月20日、北ダッカ市職員と区長、防災モデルコミュニティの代表者が参加し、タウンウォッチングマニュアルの完成記念イベントを開催しました。防災コミュニティでは、活動開始時に研修の一環としてタウンウォッチングを実施しています。災害を想定して自分の地域を歩いて回るタウンウォッチングはダッカ市民にとっては新しいコンセプトで、どの参加者も、実際にタウンウォッチングをしてみると新たな発見があることに驚きます。タウンウォッチングの意義とマップ作り、活動計画づくりまでの実施方法をまとめたタウンウォッチングマニュアルは、ダッカ市の区長やコミュニティ向けに、これまでのダッカでの経験を踏まえ、ベンガル語と英語で作成しました。完成記念イベントに参加した防災コミュニティ代表からは、「これまで地域のために警備員を配置したりイベントを催したりしてきたが、防災については考えたことがなく、タウンウォッチングを通してその必要性に気づくことができた」との経験を他参加者に共有してくれました。



タウンウォッチングマニュアルを紹介する北ダッカ市職員と区長

防災モデルコミュニティによる活動

12月に入り、ダッカにも冬がやってきました。暑さが引くこの時期は、様々なスポーツイベントや催し物が開催されます。防災モデルコミュニティでは、こうした地域のイベントにあわせて地域住民のための防災啓発を行っています。例えば、サッカートーナメントではけが人の安全な運び方や応急処置のデモンストレーションを行ったり、地域のフリーマーケットでは会場の一角に防災コーナーを設け、消火器の紹介やリーフレットの配布を行うなど、地域のイベントに防災の視点を盛り込むよう工夫しながら活動しています。



インド

【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

本事業では、防災教育/気候変動教育の拠点となる「クライメイトスクール (CS)」5校とCSが位置する5地区に地域防災協議会を設置し、地域防災のモデルづくりを促進しています。2017年11月、12月は下記の活動を行いました。

アウトリーチ校への「まちあるき研修」指導法の研修

昨年度7月にSEEDS Asiaが実施した研修を受講したCSの教員が、今年度は指導者となり、周辺校3校から各5名の教員に対して研修を実施するための指導研修を行っています。



セントラルヒन्दウ男子校の教員からアウトリーチ3校教員への「まちあるき研修」の様子

2017年11月3日に、CSの一つであるシュリ アグラセン カンニヤ女子校の教員が同校と連携するアウトリーチ校として指定されたシュリ ヴァラブ ヴィディヤピート校の教員と共に生徒71名を対象にまち歩きの研修を実施し、11月13日は、ハリス チャンドラ校で教員・生徒64名、ニベディタ シクシャサダン校では74名の教員・生徒を対象に同研修を実施しました。また、12月9日には、同じくCSのセントラル・ヒンドウ男子校にて、同研修の指導法研修を同校のアウトリーチ校のアングロベンガリ校の42名の教員・生徒、そして12月16日にはナベニータクンワル校の33名の教員・生徒に向けて実施しました。

受講した教員からは、「定期的なトレーニングの導入の希望や親を巻き込んで実施するとさらに効果的だと思う」等、意欲的な意見をいただきました。

## 大気汚染の避難訓練

11月28日から12月1日にかけて、SEEDS Asiaの本部職員がトレーナーとなり、CS4校での大気汚染の避難訓練を実施しました。バラナシでは安全基準の10倍を超える濃度の汚染物質が記録される等、深刻な大気汚染の問題を抱えており、その健康被害が懸念されています。そこで、まず大気汚染の状況とリスクについて理解を深め、その上で大気汚染からの被害を最小限に留めるために情報収集の方法とその理解、学校での情報共有と避難を含めた対処について、研修と訓練を行うこととしました。避難訓練の前には各校で認定された学校防災委員会のメンバーを中心に、大気汚染の情報収集から生徒の避難等について計画を策定すると共に、大気汚染の現状やその健康被害、そして、インドでは6色コードで分けられている大気汚染の数値についての理解を深める研修を行いました。研修はクイズ形式で実施され、教員も生徒も楽しく知識を深めることができ、四日市ぜんそくなど、日本の教訓も共有されました。

尚、大気汚染の避難訓練については京都市立高倉小学校の光化学スモッグへの避難訓練計画を参考にさせて頂く等、ご協力をいただきました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。



インドにおける大気汚染状況を示すカラーコードについて説明している様子

大気汚染の避難訓練の様子は下記のリンクからご覧ください。

ラージガート校 (11月28日実施)

[https://drive.google.com/file/d/1n9Vfpz\\_cgTt2WtZCjKGSmymsvZX5D-K/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/1n9Vfpz_cgTt2WtZCjKGSmymsvZX5D-K/view?usp=sharing)

聖アトウラナンド校 (11月29日実施)

<https://drive.google.com/file/d/13SDPLtV5wzrWfEi2akzEjRjWp8K0811/view?usp=sharing>

アグラセンカンニヤ女子校 (11月30日実施)

<https://drive.google.com/file/d/1p9n6glbvtbraoqVcelBjFRjWhJwueMm/view?usp=sharing>

アーリヤン国際校 (12月1日実施)

[https://drive.google.com/file/d/1ePVbqAFWF379TV\\_ck5BQqNtUigzCGZBI5/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/1ePVbqAFWF379TV_ck5BQqNtUigzCGZBI5/view?usp=sharing)

## 地域連携協議会へのモニタリング

11月28日から12月1日にかけて、本部職員の立ち合いの下、各地域での防災活動の推進状況についてモニタリングを実施しました。中でも、サリーの織りで有名な工芸職人の多い村で、何代にも亘って織り機を洪水から守ってきたサライモハナ村では、村の住民から少額を集めて陥没していた箇所の修繕をおこなったり、地域住民への啓発と応急処置トレーニングを実施するなど多くの自主的な活動が多く見られました。他にも多くの地域連携協議会で水と衛生のキャンペーンを展開したり、気象観測のデータを地域住民に一齐にアナウンスしたりなど、活発な活動を確認することができました。



地域連携協議会へのモニタリングの様子

## 本邦研修の経験の共有と2年次の最終ワークショップ

本邦研修に参加したCS教員と国家災害対応部隊のメンバーを中心に研修の報告を含めた2年次事業の最終ワークショップを12月3日に実施しました。京都市で研修を受けた学校と地域の連携に拠る防災教育と災害リスクマネジメントについて、参加したメンバーから各担当箇所の報告が行われました。地域住民と参加した教員の間で質疑応答が繰り返されると共に、「京都市で市民のチカラについて学んだ。と同時にバラナシでは市民のチカラが活かされていない。こうして、事業を通じて構築された学校と、地域と国家災害対応部隊のネットワークを強化し、広げていきたい。」と、本邦研修に参加した国家災害対応部隊(NDRF)のディベンドラ氏が強く呼び掛けました。この気運に乗り、早速にCSと国家災害対応部隊が連携して主導し、アウトリーチ校の教員や生徒を含め12月21日、22日の二日間、災害対応研修を実施しました。



本邦研修の経験の共有と2年次の最終ワークショップの様子

以上を以て、外務省 日本 NGO 連携無償資金協力事業「バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業」の第2年次が終了致しました。次号から第3年次事業の様子をご紹介します。引き続きご支援ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。



フィリピン (セブ)

【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における学校の防災管理推進支援事業】

パイロット校、地方自治体、コミュニティ、教育省、ベースライン調査実施校との会議実施

11月17日から12月7日にかけて、セブ州内の9つのパイロット地区（\*下記表参照）にて会議を実施しました。この会議には学校防災管理チーム（パイロット校の教員それぞれ12人ずつ）、地方自治体防災管理担当、コミュニティ防災管理担当、教育省地区事務所職員と、7月に学校災害回復力評価というベースライン調査を行った際の協力校の学校長及び防災管理担当も参加しました。教育省地区事務所長などの挨拶で始まり、事業の概要紹介、教育省地区事務所、パイロット校、地方自治体、コミュニティの役割・責任の説明、学校回復力調査の結果発表を行いました。地方自治体とコミュニティの代表からは、それぞれの単位での防災管理計画やプログラムの発表もあり、事業全体への協力の約束がありました。最後に、パイロット校長が他の教員とともに、パイロット校として事業の役割を果たすという決意を表明しました。

\*パイロット地区での会議

11/17	ダナオ市地区
11/23	セブ州地区ダアンバンタヤン町
11/27	ラブラブ市地区
11/29	ボゴ市地区
12/1	ナガ市地区
12/4	マンダウ工市地区
12/5	セブ市地区
12/6	カルカル市地区
12/7	トレド市地区



カルカル市地区での会議にて発表するカルカル市防災管理局職員

セブ州での国内研修後ワークショップ実施

12月11日から13日の3日間にわたり、セブ市内で国内研修後ワークショップを行いました。パイロット地域の教育省地区事務所所属防災管理コーディネーターを含む13名が参加し、学校防災管理運営指針、来年度のパイロット校教員向け研修、防災管理指導チームとしての活動計画などについて話し合いました。参加者の協力により、運営指針の目次、執筆箇所分担、安全点検チェックリスト、学校防災管理チームの組織編制・活動内容、来年のパイロット校教員用トレーニングの内容、スケジュール、役割分担、防災管理指導チームとしての活動計画を作成することができました。



国内研修後ワークショップの様子

国レベル気候変動会議にて発表

11月20日と21日、教育省本省防災管理局が、マニラ首都圏ケソン市にて「回復力の高い教育に向けた気候変動への対応」をテーマとした、国レベルでの気候変動会議を開催しました。全国の地方・地区・学校防災管理コーディネーター、地区事務所長など教育省関係者500人以上が参加しました。SEEDS Asiaは2014年から2017年にかけて実施したセブ州の防災教育事業について、サイドイベント「K to 12（幼稚園から高校までの義務教育）カリキュラムへの気候変動教育の導入」での発表の機会をいただき、ブースでも紹介をしました。参加者に興味を持っていただき、同様の取組みを担当地域に導入したいとのコメントがありました。教育省本省防災管理局に、「来年教育省の予算で、各地域で研修を行いながら、同取組みをフィリピン全土に導入したい」との話をいただきました。



国レベル気候変動会議での発表の様子

マンダウ工市での防災教育研修参加

11月30日、12月1日、2日に、先行事業の防災教育事業のパイロット地域のひとつ、教育省マンダウ工市地区事務所でのトレーナー研修（ToT: Training of Trainers）に招待されました。カリキュラム開発部責任者のフェイ・ルワレス氏率いる、先行事業の「防災教育推進校」の12人の教員が講師となり、研修を行いました。防災ソング、緊急時の調理など21の防災教育活動や被災からの回復についてのディスカッションを含む内容で、マンダウ工市の学校長や教育省同地区事務所のスーパーバイザーら約60名が参加しました。3日間、興味深く防災教育を学んだ参加者は、今後自校の児童・生徒たちに学んだ内容を伝えます。

## 【中央共同募金会：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト】

### プラノジャンガジョリ村でのモニタリング

2015年4月のネパール地震後、SEEDS Asiaは生活物資や学習教材を届ける緊急支援を経て、「よりよい復興」に向けたコミュニティ防災活動支援として、現地のNGOであるCDCCS（災害・気候変動研究センター）とともに、防災ワークショップを行ってきました。

12月24日には、シンドゥリ郡のプラノジャンガジョリ村で、赤い羽根共同募金によるネパール地震災害福祉活動支援募金助成事業「村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト」の事業評価が大橋正明教授の現地訪問の下、実施されました。



プラノジャンガジョリ村でワークショップの参加者との集合写真

同プロジェクトでは、①地震時の対応を振り返り課題を把握すること②今後の防災啓発の内容と主体（責任や役割）を明確にすること③防災啓発の計画づくりを活動の三本柱としてトレーニングやワークショップを開催してきました。

モニタリングでは今までの活動の経緯を説明すると共に、村で組成された防災委員会の会長から委員会の目的や組織体制、現在の村が抱えている災害リスクについて紹介し、その後担当部会のメンバーから、その活動計画が発表されました。大橋教授からは「モデル事業をいかに広げていくか、ネパール政府が地震後に取り組み始めた流れの中に如何に組み込んでいくか」、さらに「村の中で、より支援を必要とする場所や人の特定がより効果的な活動には必要」という今後の活動にあたる建設的な意見を頂きました。この場をお借りして、遠方までお越しくくださった大橋様、並びに赤い羽根共同募金とご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。



大橋正明教授によるモニタリング

## (1) 【丹波市復興まちづくり協働事業】

### ビデオ教材の取材撮影と協議

11月6日と27日、丹波市で使用する予定の防災教育ビデオ教材作成に向けた取材撮影を実施しました。11月6日は森林管理を積極的に行っている自治会長と、2014年の豪雨災害時に炊き出しをした地域住民、そして当時小学生だった被災経験者の中学生、11月27日には被災地で活躍された消防団員の方にインタビューしました。それぞれへの取材で、災害当時のできごとやふるさとへの想い、被災により考え方が変化したことなどについて正直に語っていただきました。

11月14日には防災研究指定校の先生方7名と市内のEARTH員（兵庫県教育委員会の震災・学校支援チーム）2名、学校教育課、復興推進部が集まり、11月6日に収録したビデオを基に協議しました。インタビューの中で残したいセリフや、セリフに合わせて見せたい画像・映像をイメージしてまとめていただいた内容は、シナリオ作成に使用します。



ビデオ教材の撮影の様子

## (2) 【丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業】

### パートナーシップ事業調印式

11月22日、丹波市保健センターで、丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業の調印式が開催されました。SEEDS Asiaは、同市の災害経験を活かして外部からの市内訪問を促進する「復興（防災）スタディツアー」を提案し採択され、調印に至りました。

同市市長の谷口進一氏は「兵庫県外での丹波市の知名度は低く、より多くの人に認知してもらい、足を運んでもらう必要がある。海外で防災活動の経験を積んできたSEEDS Asiaの力を借り、是非丹波市の防災・復興の取組みを発信していきたい」と言って下さいました。SEEDS Asia事務局長からは「2014年丹波市豪雨災害には多くの教訓があり、中でも住民同士の声掛けによる速やかな避難行動と、その後のスピーディーな応急復旧は日本全国、また世界に誇れるものなので、スタディツアーを通じてその学びを共有していきたい」と決意を語りました。



パートナーシップ事業調印式

### (3)【JICA 課題別研修：防災主流化の促進】

#### 16 国 19 人が学んだ日本の防災を支える仕組み

2017 年 11 月 6 日から二週間にわたり、16 国出身の防災行政に携わる政府職員 19 人を対象に、防災主流化を促進するための研修が東京と兵庫で実施されました。SEEDS Asia は研修受託機関として研修プログラム作り等に関わりました。

最初の一週間は、日本の災害の歴史やそれに伴い改良されてきた政策・法律を各省庁の担当者や専門家の講義を通して学びました。参加者は、防災主流化の概念と開発計画における防災の位置づけや、主に中央省庁における政策レベルでの推進手法についての講義を受けました。さらに、金融機関などの民間企業が防災促進のためにどのような商品を開発し、災害に備えているのか、企業訪問を通して学びました。

研修の後半は、兵庫に移り、特に阪神淡路大震災後の県レベルにおける防災の取り組みの進化について行政の担当者からお話を伺いました。2014 年に豪雨被害を受けた丹波市でもフィールドワークをおこない、災害時に行政レベルでつくられた仕組みがどのように機能するのかを学びました。最後に、参加者は、自国でどのように防災を推進していくかアクション・プランを作成し、プレゼンテーションを行いました。日本のベスト・プラクティスを自国に持ち帰り、災害への備えが強化されることが期待されています。



兵庫・丹波で 2014 年の豪雨被害の復旧作業について説明を受ける研修員

### (4)【講師派遣】

SEEDS Asia では、全国の学校や地方自治体、企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2017 年 11 月～12 月には以下の講師派遣を実施しました。

#### 兵庫県教育委員会防災教育推進指導員養成講座【上級】での講義

11 月 16 日、兵庫県教育委員会が開催する防災教育推進指導員養成講座の上級編で「海外の被災地支援活動とボランティア精神」をテーマに講義をしました。同講座では、兵庫県下で防災の指導や学校防災管理に関心のある教職員を毎年募集し、初級・中級・上級のカリキュラムに基づき研修機会を提供しています。SEEDS Asia は兵庫県教育委員会と JICA フィリピン事業を実施していることから、今年度の全ての講座を受講させていただき、フィリピン事業にその学びを活かすとともに、上級編では国内・国外の災害時緊急支援の事例を発表しました。

国内の事例では 2016 年の熊本地震、国外の事例では 2013 年のフィリピン台風ヨランダ(国際名:ハイエン)の後の緊急支援について紹介しました。受講していた学校の先生方にはあまりなじみのないテーマですが、少しでも災害発生後の支援の話を知っておくことで、いざ被災した時、または教職員として被災地に派遣された時にどのように行動すべきか、どのような視点を持つかの具体的なイメージを持ってもらえたら幸いです。県教育委員会教育企画課の方からは「現地調査やプロジェクトの立案、事業実施などをすべて担う市民団体の人達がいるということ、教職員に知らなかった。また、教育者として国際人材というものの姿を想像してもらった」と言っていました。講義を聞いて下さった先生は「海外では学校と地域の連携が進んでいるように感じた。日本ではどのように連携を進めたらよいか、考えていきたい」と、その後のディスカッションも盛り上がりました。

SEEDS Asia では、講師派遣を行っています。防災に関わる内容から活動国の話等、講義から、ゲームや紙芝居などのアクティビティを取り入れた講座など、幅広い方々を対象に講演を行うことができますので、ご関心のある方は SEEDS Asia 事務局 講師派遣係 (rep@seedasia.org) までお問い合わせ下さい。



Bangladesh

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

DRR Photography Competition

Involving media is another important factor of the Bangladesh community based DRR project in order to reach out to wider range of general public and raise DRR awareness. As a part of the awareness raising effort, SEEDS Asia launched a DRR photography competition in November. Application is open to anyone; the applicants are asked to submit their photograph with the related story from perspectives such as DRR and women/school/home/environment/technology, etc. Photography competitions are popular in Bangladesh, but the one focusing on DRR is the first ever initiative in the country. Universities, photography clubs, communities, etc. in Dhaka City were visited, informing about the competition and encouraging the participation. Best photographs are going to be exhibited in the exhibition in February 2018.



Application Acceptance Started for Photography Competition

Town Watching Manual Launching Event

On 20th December, town watching manual launching event was held, and Dhaka North City Corporation officials, local councilors, and DRR communities participated in it. SEEDS Asia conducts town watching with communities when DRR activities are to be started in their localities. Town watching, in which participants walk around their own region from disaster perspective, is a new concept to the Dhaka City citizens. All the participants were surprised at new findings in the actual practice of town watching. The

manual, describing the purpose of town watching and the detailed practical methods including map making and action planning, was developed (both in Bengali and English) based on the experiences of SEEDS Asia in Dhaka in order to be utilized by ward councilors and community leaders. In the above event, one of the DRR model community representatives shared his experience: although his community had tried to make their area better by activities such as posting security guards and organizing cultural events, he had never considered DRR; town watching changed his mindset and made him realize the necessity of DRR work in his community.



Dhaka North City Corporation Officials and Local Councilors Introducing Town Watching

DRR Model Community Activities

Winter has come in Dhaka and as the temperature goes down many sports and cultural events take place in this season. DRR model communities are utilizing these opportunities to raise DRR awareness in their respective communities. For example, one of the communities conducted first aid demonstration in their football tournament, and another set up a DRR information booth at their community fair where they displayed fire extinguishers and distributed DRR awareness leaflets.



India

Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi, funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)

SEEDS Asia has been promoting a model of community-based Disaster Risk Reduction (DRR) by establishing five 'Climate Schools (CS)' as focal points of DRR/climate change education, and five 'Citizen Forums (CF)' in each CS area. The activities operated in November and December 2017 were as follows.

Training of Trainers on Town-Watching Training at Outreach Schools

The CS teachers who took the training conducted by SEEDS Asia in July of the last fiscal year has become the trainer in this fiscal year and has been conducting the training of trainers to each of the five teachers of the three schools as their outreach schools in the surrounding area.

On 3rd November, the teachers of Shri Agrasen Kanya Inter College, a CS, conducted the town-watching training to 71 students with the teachers of Shi Vallabh Vidyapeeth Inter College which has been designated as the outreach school of the above Inter College. On 13th November, the same training was conducted to 64 teachers and students at Haris Chandra Inter College and 74 teachers and students at Nivedita Shiksha Sadan Inter College. In addition, on 9th December, the training of trainers on town-watching training was conducted by a teacher from Central Hindu Boys School, a CS, to the teachers and students of its outreach schools, C. M. Anglo Bengali Inter College (42 teachers and students) and Navneeta Kunwar Public School (33 teachers and students).

Some enthusiastic feedbacks were received from those teachers participated, including "We would like to have this type of training at regular intervals and involve teachers, students and parents. This is sure to extend the awareness among them towards disasters".



Training for Outreach School by CHBS

Air Pollution Evacuation Drills

From 28th November to 1st December, evacuation drills from air pollution were conducted by SEEDS Asia in cooperation with four CSs. In Varanasi, air pollution has been a severe issue as the air pollution observation data records ten times of the safety guidance values, and its health risk is of serious concern. Thus, in order to minimize the risk through understanding of the condition of air pollution and its effect, it is decided to conduct training and evacuation drills to learn the ways to collect data, how the information is to be shared at schools, and the ways to cope with air pollution as a part of evacuation process.

Before implementing the evacuation drills, the School

Disaster Management Committee was established at each school and planned the process to mobilize students based on warning signals. Then, the learning sessions covered the present condition of air pollution, its health damage, and the color code of the air quality index (AQI) (six colored categories used in India). The training was conducted in quiz style, and both of the teachers and students enjoyed learning and the lessons learnt in Japan such as the Yokkaichi Asthma were also shared.



Training on Color code for Air Quality Index (AQI) to cope with Air Pollution

For the preparation of the air pollution evacuation drills, Kyoto Municipal Takakura Elemental School offered some help such as sharing their evacuation drill plan against photochemical smog. SEEDS Asia would like to take this opportunity to express sincere appreciation to the school for the technical support.

The conducted air pollution drills can be viewed at the following websites:

Rajghat Besant School (28th November)

[https://drive.google.com/file/d/1n9vFpz\\_cg7tg2WtZCjKGSmysvZX5D-K/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/1n9vFpz_cg7tg2WtZCjKGSmysvZX5D-K/view?usp=sharing)

St Atulanand Convent School (29th November)

<https://drive.google.com/file/d/13SDPLTV5wwzrWfEi2akzEjRjWp8KO811/view?usp=sharing>

Shri Agrasen Kanya Balika Inter College (30th November)

<https://drive.google.com/file/d/1p9n6gLvbtbraoqVcelBuFRjWhJwiueMm/view?usp=sharing>

Aryan International School (1st December)

[https://drive.google.com/file/d/1ePVbqAFWF379V\\_ck5BQQn7UigzCGZBI5/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/1ePVbqAFWF379V_ck5BQQn7UigzCGZBI5/view?usp=sharing)

Monitoring of Citizens Forum

From 28th November to 1st December, under the observation of SEEDS Asia staff, monitoring of the progress of DRR activities was implemented at each CF. Through the monitoring visit, it has been observed that villagers are collectively making efforts to transform the village safer, especially in Sarai Mohana Village where many famous weavers of saris live and weaving machines had been protected from floods over generations. For example, subsided road were repaired by collected fund from each resident and many voluntary activities such as awareness and first-aid training sessions for community people were also held. Many other initiatives were also seen in other CFs, for example, conducting water and hygiene campaign and establishing announce system for meteorological observation data to the community people.



above. The implementation of the third fiscal year of this project will be starting to be reported from the next newsletter. Your continuous supports and cooperation would be very much appreciated.



Monitoring in Salai Mohana Village

Sharing the Experiences at Japan Study Visit and the Final Workshop of the Second Fiscal Year

On 3rd December, the final workshop for the second year project was held. The main purpose was to share the learnings and action plan by the members who participated in Japan Study Visit in October. Japan Study Visit participants reported each assigned part regarding the DRR education and disaster risk management conducted by the great support of schools and communities in Kyoto City. Many questions and answers were exchanged between the community people and the delegation. Mr. Devendra Kumar of National Disaster Response Force (NDRF), who participated in the Japan Study Visit, strongly expressed, "We learnt how community/society is making great effort to keep environment clean and safe in Kyoto City, whereas the community people's efforts are not much utilized in Varanasi. We would like to strengthen and expand the network between schools, communities, and NDRF built through this project". On the arising groundswell, the disaster risk reduction training was conducted, led by the collaboration of CSs and NDRF, for those people including the teachers and students of the outreach schools for two days on 21st and 22nd December.

The second fiscal year of "Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi" had completed with those activities described



Workshop on Sharing Japan Study Visit as Final Workshop



Philippines (Cebu)

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

Meetings with Department of Education, Pilot Schools, Target Schools of Baseline Survey, Local Government Units and Community

The meetings with the twelve teachers as the members of School Disaster Risk Reduction and Management (DRRM) team of each Pilot School in nine pilot areas were held in November and in December (\*Details are provided in the table below.), and DRRM officers of local government units and those of communities, and officials from Department of Education (DepEd) Schools Division Offices also participated. Target schools of the baseline survey, the "School Disaster Resilience Assessment (SDRA)", conducted last July to establish the baseline data to be referred to in the project, also participated in the meeting. The meetings began with the messages from DepEd Schools Division Offices such as their Schools Division Superintendents, and SEEDS Asia presented the project overview, the roles and responsibilities of DepEd Division offices, Pilot Schools, local government units, communities, and the results of the SDRA survey. The local government units and communities also shared their DRRM plans and programs, and expressed their willingness to cooperate on the project at the end of the meetings; the school heads of the Pilot Schools expressed their commitment to the project together with their teachers.



Disaster Risk Reduction and Management Officer from Carcar City Making a Presentation in a Meeting in Carcar City Division

\*Meetings at pilot areas

17th November	Danao City Division
23rd November	Cebu Province Division–Daanbantayan District
27th November	Lapu-Lapu City Division
29th November	Bogo City Division
1st December	Naga City Division
4th December	Mandaue City Division
5th December	Cebu City Division
6th December	Carcar City Division
7th December	Toledo City Division

Post Training Workshop in Cebu Province

On 11th to 13th December, SEEDS Asia successfully finished the three-day Post Training Workshop in Cebu City. Thirteen participants including DepEd DRRM coordinators attended to discuss the School DRRM Operations Guideline, the training design for the Pilot School teachers, and the activity plan of DRRM Instructing Team. The participants cooperated in making the Operations Guideline outline, the school safety checklist, the organizational chart and activities of School DRRM Teams, the training design, the schedule, the role allotment for the Pilot School teachers' training and the activity plan of DRRM Instructing Team, and deciding the assignments after the Workshop.



Post Training Workshop

Presentation at National Climate Change Conference

On 20th and 21st November, DepEd through its Disaster Risk Reduction and Management Service (DRRMS) arm conducted the national climate change conference "Addressing Climate Change Towards Resilient Education: A National Conference" in Quezon City, Metro Manila. The event was attended by more than 500 participants from all the DepEd Regional Offices nationwide, composed of DRRM Coordinators of schools, divisions, regions, and Schools Division Superintendents. SEEDS Asia was given the honor to present the Disaster Risk Reduction Education (DRRE) project in Cebu Province implemented from 2014 to 2017 at one of the side events called "Integrating Climate Change in the K to 12 Curriculum". Likewise, SEEDS Asia was also given an exhibit booth to showcase the DRRE initiatives. Participants showed interest to SEEDS Asia's

DRRE Integration and said that they would like the same initiative to be implemented in their respective jurisdictions. At last, DepEd-DRRMS proposed saying "Let's discuss scaling-up of SEEDS Asia's DRRE Integration project by implementing a capacity building training for all the regions next year with the funding by DepEd".



Presentation at National Climate Change Conference

Disaster Risk Reduction Education Training in Mandaue City

On 30th November, and 1st and 2nd December SEEDS Asia was invited as a guest to observe the three-day Training of Trainers (ToT) workshop at DepEd Mandaue City Division, one of the project beneficiaries of the first phase project on DRRE implemented by SEEDS Asia. The workshop was conducted with the collaborative effort of twelve capacitated teachers headed by the Curriculum Implementation Division (CID) Chief Mrs. Fay Luares of Mandaue City Division, one of the project core team members of the first phase project. This workshop included the 21 DRRE Activities such as DRRE Jingle, Emergency Cooking, etc. and discussions about disaster resilience and mitigation as capacity building training, and 60 school heads and Public School Division Supervisors participated in it. Those participated in the three-day fun-filled experience were also excited about passing this on to their students.



Nepal

Project Funded by Central Community Chest of Japan: Project on Capacity Building of Disaster Risk Management for Village Development Committees (VDCs)

DRR Workshop at Jhangajholi RatamataVDC

After the Nepal Earthquake in April 2015, SEEDS Asia handled emergency support to provide subsistence goods and educational kits. Then, SEEDS Asia has been conducting DRR Workshops with the local NGO, Centre for Disaster and Climate Change Studies (CDCCS), as

community DRR activity support for "Build Back Better" reconstruction.

On 24th December, monitoring session was held in Prano Jhangajholi village in Shindhuli District with the presence of Professor Masaaki Ohashi who was dispatched by Akaihane Foundation (Central Community Chest Society of Japan) as external consultant for the monitoring on the "Support Project on the enhancement of Community-based Disaster Risk Management in VDCs".



Group Photo with the Participants of the Workshop at Prano Jhangajholi Village

The project aims to enhance community based disaster risk management by organising trainings and workshops with the following three processes:

1. Review the Gorkha earthquake and extract lessons learnt for improvement
2. Defining the roles and responsibilities in disaster management in community
3. Making sustainable action plan for enhancing community based DRR activities

In the monitoring, the chair of the Village Disaster Risk Management Committee which was formed through the project introduced the aim and structure of the committee and its sub-committees, and shared the hazard risk of the village. Each sub-committee such as early warning and communication, first-aid and search & rescue also shared the plan.



Monitoring by Professor Masaaki Ohashi

Based on the observation, Professor Ohashi shared and exchanged his views on how to expand and making this initiatives more effective in a village with population of 4,700. Coordinating more to integrate this bottom-up approach with the new initiatives taken by Nepal government on disaster management, and identifying the vulnerabilities in the village for making action plan to be effective were suggested to the committee. By taking this opportunity, we would like to thank to Professor Ohashi as Akaihane Foundation and the people who support the project!



Japan

### (1) Joint Project with Tamba City for Community Development

#### Interview Shooting and Discussions over Video Materials

On 6th and 27th November, video shootings took place for the DRR education video material that will be used in schools in Tamba City. The interviewees were: community leader who engages in forest management for disaster mitigation; community members who were affected but provided food for neighbors at the time of the 2014 torrential rain disaster; junior high school students who encountered the disaster as elementary students; and a fire brigade leader who assisted evacuation of many people during the disaster. They shared their own experiences of the encounter with the disaster, what they feel about their hometown, and the changes in their way of thinking after the disaster.

On 14th November, a meeting among seven teachers from appointed DRR schools, two EARTH (Emergency and Rescue Team by School Staff in Hyogo, a group of Hyogo Prefectural Board of Education), members of the City Board of Education and Recovery Promotion Department was held in order to check and discuss over the recorded videos. They took note of important remarks of the interviews along with images that would match such remarks. The results of the discussion will be used in making the scenarios.



Video Shooting

## (2) Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project

### Partnership Signing Ceremony

On 22nd November, signing ceremony of Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project between the City and SEEDS Asia was held at the City Healthcare Center. SEEDS Asia proposed a "study tour" project to provide learning opportunities for visitors through the City's experience of being stricken by a disaster in 2014, which has been selected by the City and reached to an agreement.

City Mayor Mr. Shinichi Taniguchi said: "Tamba City is not well known outside Hyogo Prefecture. We must promote the presence of the City and encourage more visits. With SEEDS Asia's expertise of overseas DRR projects, I truly hope that Tamba City's initiatives in DRR and recovery will be widely recognized". Executive Director of SEEDS Asia stated: "There are many lessons learnt from the torrential rain disaster of 2014. The most impressive were the smooth evacuation through mutual help, and immediate restoration process afterwards. Both of these great lessons are to be learnt nationwide, and worldwide. We shall promote these meaningful learnings through study tours".



Partnership Signing Ceremony

## (3) JICA Training :Promotion of Mainstreaming DRR

### Japan's DRR Mainstreaming Learned by 19 Government Officials from 16 Countries

19 government officials working in disaster preparedness representing 16 countries visited Japan for two weeks in November. Participants learned about Japan's policy making to mainstream disaster risk reduction in both Tokyo and Hyogo. SEEDS Asia was involved in planning the training program as implementing partner.

In the first week, officials revisited Japan's history of disasters and how policies and laws transformed accordingly through lectures by ministry officials and

experts. Moreover, participants learned how private sector works to develop and produce products to facilitate disaster preparedness through a company visit to a major financial institution in Tokyo.

In the second week, the mission spent their time in Hyogo, and developed upon their newly acquired knowledge of disaster preparedness to understand how national laws and policies were implemented and customized at the local level. Moreover, officials conducted field work in Tamba City, which was devastated in 2014 due to heavy rain and flooding, to learn about disaster response and continuing recovery process. The training program finished off with the participants formulating action plans and presenting them to the group. We hope the participants will take back their learnings and best practices of Japan to strengthen disaster preparedness in their respective countries.



Trainees Learning about the Reconstruction Work of the 2014 Torrential Rain Damage in Tamba, Hyogo

## (4) Dispatch of Lecturers to Conduct DRR Class or Event

SEEDS Asia dispatched staff members as lecturers to conduct DRR training or classes in a wide range of methods and contents on the requests from any organizations such as schools, municipalities, residential communities and private sectors. In November and December 2017, our staff members provided the following lectures.

### Lecture at Upper Course of DRR Education Promoting Instructors by Hyogo Prefectural Board of Education

On 16th November, SEEDS Asia provided a lecture at Upper Course of DRR Education Promoting Instructors organized by Hyogo Prefectural Board of Education (Hyogo BoE) with the theme of "Overseas Emergency Support Projects and Volunteerism". This training course is one of the three (primary/middle/upper) courses provided to school staff/teachers in Hyogo Prefecture who are interested in DRR education and DRR management. As SEEDS Asia is implementing the JICA project in the Philippines with Hyogo BoE, these lectures have been observed throughout the year to make use of the learnings in the said project. In the Upper Course, SEEDS Asia took charge in introducing

examples of emergency support projects both inside and outside Japan.

The example from inside Japan was Kumamoto Earthquake in 2016, and the example from outside was Typhoon Yolanda (international name: Haiyan) in 2013 in the Philippines. The theme may not have been familiar to the attending staff/teachers, but at least knowing some examples of disaster-affected areas might help to think what action they should take, from what kind of perspectives, when they themselves are actually affected, or are dispatched to one of affected areas. Hyogo BoE's official from the Education Planning Section said: "I wanted all the attending trainees to know that there are people in civil organizations who are engaged in all of those starting from needs assessment, project development to implementation. Also, it is a great need for them as educators to have a concrete image of what a global person is like". One teacher raised his hand saying: "It seems the cooperation between schools and communities is more advanced overseas. I would like to pursue how to do the same in Japan", which later on developed into a heated discussion.

In general, SEEDS Asia dispatches staff members to organizations upon request, to give lectures (also with games or picture-card shows) with wide range of targets and topics which relates to our activities. If you are interested in inviting our lecturers on DRR, please kindly contact: SEEDS Asia Headquarters ([rep@seedsasia.org](mailto:rep@seedsasia.org)).